

令和8年度 第1回定期学校訪問 学校マネジメントの現在地

「学校マネジメントの4つの観点」に係る16のポイントに照らした検証
(「マネしるべ未来アクションシート」の分析より)

好事例といえる項目（上位5つ）

順位	項目	項目の要旨
1	10	ミドルリーダー主導による組織的学校運営
2	1	学校教育目標と目指す資質・能力の明確化
3	13	多様な専門スタッフの参画体制の整備
4	11	ミドルリーダーが企画、提案に関与
5	12	ミドルリーダーを管理職がサポート



好事例のポイント

項目10・11・12

ミドルリーダー主導による組織的学校運営

校長からのミッションとポジションを与えられたミドルリーダーが、校長の方針の周知や教職員の意見集約といったミドル・アップダウン・マネジメントが機能してきている。教育活動の企画や提案事項をミドルリーダーが把握しながら、各種主任が運営委員会等で提案している。

項目1

学校教育目標と目指す資質・能力の明確化

昨年度の児童生徒のデータ分析や、保護者・地域の願いを反映した学校教育目標を設定している。そして、学校教育目標に基づいた目指す資質・能力が明確になっている。

項目13

多様な専門スタッフの参画体制の整備

SC・SSW等専門スタッフ、関係機関との連携により、いじめや不登校対応における支援体制を築いている。

項目14

子どもたちの成長を支える体制

地域協育コーディネーターが学校と地域の架け橋となり、多様な体験活動を「開かれた教育課程」として位置づけている。

充実を期待する項目（上位5つ）

順位	項目	項目の要旨
1	9	客観的データに基づく生きた検証・改善のブラッシュアップ
2	16	学校・家庭・地域が「やってよかった」を実感
3	2	課題の焦点化と取組の精選
4	7	指標確認のためのデータ収集
5	4	「4点セット」の策定・検証に全職員に関与



改善のポイント

項目9

客観的データに基づいた検証・改善のブラッシュアップ

各種調査や学校評価アンケート、保健室や図書室の利用状況などの数値を把握する定量データと、指導の記録やアンケートの記述など子どもの姿をもとに言葉で解釈する定性データ、さらに生成AIを往還的に活用しながら改善策の検討にいかす場の設定や対話する時間の確保が必要である。

定量データ…正答率や回答割合などから、全体の傾向や変化を捉える

定性データ…発言やエピソードから、数値の背景や学習の過程を理解する

⇒多面的なデータを活用した検証と全職員での取組内容や取組指標の見直し、全職員の組織的な取組の実行につなげる。

項目16

学校・家庭・地域が「やってよかった」を実感【当事者意識】

目標協働達成にむけ、4点セットや取組内容を地域に発信することと、子どもの成長や声を地域に届けことが大切である。

⇒目標に向かった取組を検証、精選することが大切である。

⇒取組内容や子どもの姿や声を地域へ発信する。（HPや学校便り等）

項目2

課題の焦点化と取組の精選

学校教育目標や育成を目指す資質・能力は明確になっている。しかし、取組指標や取組内容が多種多様で焦点化していない。

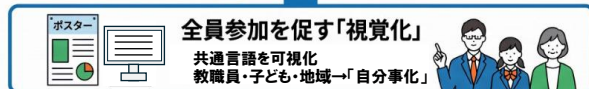
⇒児童生徒の実態に基づき、課題を焦点化し、取組をスクラップ&ビルドの視点で精選する。成果が子ども達に現れるよう全職員の実践の質を向上させる。



I II

目標達成マネジメント

課題の焦点化と取組の精選が、組織の実行力を最大化させる。



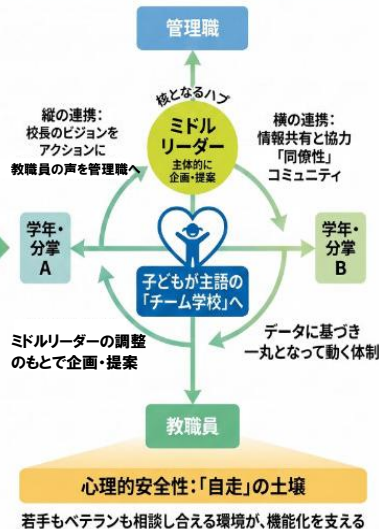
III

組織マネジメント

従来の「くし形組織」



理想的な「ミドル・アップダウン・マネジメント」



IV

家庭・地域との「連携と分担」によるマネジメント



第2回定期学校訪問までに期待すること

- ・ ミドルリーダーが主体となったデータの解釈や、全教職員が関わり心理的安全性を確保した対話による「生きた検証・改善」
- ・ 各種調査アンケート、客観的なエビデンスの有効活用
- ・ 「やってよかった」（子どもの成長）を家庭、地域への発信
- ・ 行事等の見直し
- ・ 発達支持的生徒指導の取組
- ・ 家庭地域と連携した組織的な健康づくり
- ・ 教育DXの推進 等